

撮影技術向上を目的としたマンモグラフィ画像の検討～乳癌症例について～

○丹野香織、杉田理津子、吉田久美子、松井志穂、棚橋美香、石田篤史、林王明美、油井克広、菅野薫、鈴木仁

財団法人福島県保健衛生協会

【目的】乳癌発見者の発見年と前回受診時のマンモグラフィ（以下MMG）とを比較する。このことにより、病変の描出、画質やポジシヨンング等、撮影技術向上に寄与する因子について検討し、検診精度の向上をはかることを目的とした。

【対象と方法】2009年から2010年度にかけて当協会が実施した乳癌検診で69例の癌症例が発見され、うち発見年のMMGに異常所見がある29例を対象とした。発見年度と前回の画像について病変部の変化を比較し、またすべの画像について、それぞれ画質、ポジシヨングに問題がないか否かを検討した。これら検査は読影医師2名と放射線技師3名で行い、主観的に評価した。

【結果】病変部の変化では、乳腺部の濃度増加が17例、石灰化の増加が11例、構築の乱れ出現が2例であった。1例では乳腺濃度と石イオン化が共に増加していた。画質とポジシヨングに問題点があった画像では、濃度不足が4例、圧迫不足が1例、病変一部欠像が1例であった。

【 考 察 】 石 灰 化 の 描 出 能 に は 問 題 が な か っ  
た。乳 腺 濃 度 増 加 部 分 や 構 築 の 乱 が の 描 出 に  
ついで、特 に、乳 腺 部 不 均 伸 展 に よ り 改 善 が 可 能  
は、撮 影 時 に 注 意 を 要 す る と 考 え ら れ た。部 濃  
変 描 出 加 し、石 灰 化 と 出 し、例 約 38% に 増 加  
傾 向 が 適 切 に 描 出 し、例 約 38% に 増 加  
増 大 を 不 足 4 例 の う ち 3 例 は、自 動 濃 度 調 整  
濃 置 の 検 出 考 慮 し、例 約 38% に 増 加  
わ の 位 置 を 考 慮 し、例 約 38% に 増 加  
の 位 置 を 考 慮 し、例 約 38% に 増 加  
か 残 基 準 上 げ の 1 例 は、自 動 濃 度 調 整  
た。ラ ス ト フ ィ ル の 濃 度 設 定 が 不 良 乳 腺 位 置  
し た の で、た。ポ ジ シ ョ ン と 考 え ら れ た。適 正  
い と 考 慮 し、た。ポ ジ シ ョ ン と 考 え ら れ た。適 正  
考 術 は さ ら に 協 会 の 乳 癌 今 後、内 部 勉 強 実 験  
【 結 語 】 当 協 会 の 乳 癌 今 後、内 部 勉 強 実 験  
れ て い た 見 つ か っ た 濃 度 向 上 に 向 け 努 力  
く つ か 見 つ か っ た 濃 度 向 上 に 向 け 努 力  
や A E C 位 置 精 度 向 上 に 向 け 努 力  
て、さ ら な 精 度 向 上 に 向 け 努 力  
い。